

## 「才」より「徳」を評価した明治の庶民

この「君に伝えたい日本」シンポジウムの記事は早速10月26日（日曜日）の産経新聞「集う」でコンパクトに取り上げられています。このなかに次のような記述がありました。

>参加者を対象にした「あなたの好きな日本人は？」のアンケートでは、多くの世代で「坂本龍馬」が1位。「聖徳太子」「吉田松陰」「西郷隆盛」らが続く。軍人としては評価が分かれる「乃木希典（まれすけ）」も、若い世代と高齢者の人気を集めた。<

この「軍人としては評価が分かれる乃木希典」という部分に反応して、シンポジウムでは実際、どのように語られたのか、レポートしてみます。これは第一部の司会者、雑誌「正論」の上島編集長が、アンケート結果の傾向を伝える中で、このように語ったのです。

「乃木希典という人は明治天皇がお亡くなられたときに自殺した軍人ですが、司馬遼太郎さんが殉死という小説の中で、かなり手厳しい批判をして、いまでも評価が分かれていると思うのです。恐らく昭和30-40年代の半ばまで一部の教育や家庭のしつけの中で、将来こういう人になりなさいという人物の中に、二宮尊徳などと並んで乃木希典の名前が挙がっていた時代もあったと思いますが、今回、10-30代と70-90代の中に名前が挙がり40-60代ではあがっていないという結果が出ています。福田さん、これについてはどう思いますか？」。

### 福田和也氏（文芸評論家・慶応大学教授）

彼は戦後すぐに「地に落ちた偶像」になった訳ではなくて、時系列で調べてみると、乃木希典は昭和30年代半ばまでは「尊敬すべき日本人」の一位、二位を占めていたのです。これが上島さんご指摘の通り、司馬遼太郎が「坂の上の雲」や「殉死」という小説の中で、無能で現場対応力がなく、制服組ばかりに気を遣って多くの兵士を死なせてしまったと指摘し、有能な児玉源太郎と無能な乃木希典という対比で書いたのです。

旅順であれだけ一杯死んだという話になると、確かに死んでいるのですが、同じ事は第一次対戦でも起きているのです。コンクリートで作られた要塞に関しては砲撃だけでは墜とせない、結局砲撃で叩いたあとに肉弾戦で突撃するしか墜とせないということが後に戦術的に証明されるわけです。

大事なことは乃木がそのことを非常に痛んでいた、彼だけがそのときの軍服を着続け、髭ぼうぼうにしながら明治天皇に「勇敢なる兵士をたくさん無くして申し訳ない」とさざめ泣くのです。

当時の庶民はそのことを感じ取って、乃木を許したのですね。有能とか無能かとかの「才」ではなくて、乃木という人物の「徳」を評価したのだと思います。その感覚が70年代以上の方にあるのだと思います。



白無垢姿の花嫁が着付け直しをする様子を興味深そうにカメラに収める外国人旅行者、日本の伝統文化に興味津々。26日、明治神宮で。

### 上島編集長

はい、いま有能か無能かということではなしに「徳」というお話を頂きましたけど、どうも戦後日本人は軍人だとか

自衛官にたいして一方的なネガティブなイメージでとらえてしまいがちですけど、櫻井さんいかがですか？。

## 櫻井よしこさん

いまの福田さんの話を伺いながら、乃木將軍に対する評価が落ちたのは、やはり当時の人の一生、行動をいまの私たちの価値観に基づいてみようとするから評価できなくなる、もしくは判らなくなる、という側面もあるんだろうなと思うのですね。

昭和35年、まあ60年代、70年代の日本人が当時の乃木將軍の行動を振り返って、いまの価値観で判断するというのは、様々な意味において、昔の人に対して「酷」なんですね。当時の状況をあくまでも当時の人のつもりになって明治百四十年の歴史、もしくは日本の歴史を見る必要があることではないかと本当に痛感をいたします。

カテゴリ: [コラむ](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(20\)](#)

タグ: [乃木希典](#) [才より徳](#) [司馬遼太郎](#) [坂の上の雲](#) [殉死](#) [福田和也](#) [櫻井よしこ](#)

## コメント(20)

[コメントを書く場合はログインしてください。](#)



Commented by [du-staroさん](#)  
hanausagi様 こんにちは

2008/10/27 13:35

才か徳かより、当時は事実が知らされていなかったからじゃないですか。それを司馬遼太郎が発掘した。

坂本竜馬が人気があるのも司馬遼太郎の影響が大ですね。その割に東郷平八郎ができませんでしたね。

>コンクリートで作られた要塞に関しては砲撃だけでは墜とせない、結局砲撃で叩いたあとに肉弾戦で突撃するしか墜とせない

戦略的に言うと、旅順の要塞をしゃにむに墜とす必要はなかったのですね。目的は旅順港にいる東洋艦隊を封じることですから、203高地を占領すれば、そこからの観測で旅順港内を攻撃できるわけです。そのことに誰がいつ気がついて、どういう風に攻撃したのかというあたりは、明治のころは誰も評価しなかったのでしょうか。



Commented by [花うさぎさん](#)  
To du-staroさん

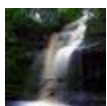
2008/10/27 16:13

>才か徳かより、当時は事実が知らされていなかったからじゃないですか。それを司馬遼太郎が発掘した。

事実って、多くの兵士が命を落とした事を言っているのですか？。それは隠しようがないでしょう。当時の新聞も伝えていたことだし、何より乃木將軍自身がその後一生このことに自責の念に駆られていたことは多くの関連本で明らかです。

>坂本竜馬が人気があるのも司馬遼太郎の影響が大ですね。その割に東郷平八郎ができませんでしたね。

世界に名をとどろかせた軍人ですけどね？。何故かな～。



Commented by [du-staroさん](#)  
hanausagi様

2008/10/27 16:49

>事実って、多くの兵士が命を落とした事を言っているのですか

いや、これは仰るとおり隠しようがないですね。僕が言っているのは、「戦術目標を、203高地を占領して旅順港内を攻撃するというに変更し、そのために本来固定砲の28センチ榴弾砲を利用する、ということが見玉の指示もしくは示唆で行われた。」

ということです。司馬遼太郎の言うように[指揮権](#)の移動があったのかどうか定かではありませんが、彼が旅順に来た直後にそれまで難攻不落だった203高地がいとも簡単に落ち

## 乃木希典は無能な軍人か？イザ！

ていることから、その可能性はありますが、公式の記録などでは**指揮権**の移動があったなどとは言えないでしょうね。

いや、僕は乃木将軍が徳のない軍人だと言っているのではありませんよ。彼の人徳がなければあれだけ戦死者の多い戦いをまっとうできなかったでしょう。ただ、司馬遼太郎の作品が明治時代に出ていたら、明治の人の評価も違ったものになったであろうと思っています。



Commented by **花うさぎ** さん  
To du-staroさん

2008/10/27 17:23

そういう戦術面の事は後付なら何とでも云えますよ。大東亜戦争の戦術面での失敗についても同じことです。

しかし、私はエントリーで櫻井女史がいていることに激しく共感します。当時を生きていた国民が乃木**大将**を評価し、軍神となって乃木神社が出来てから生を受けた司馬遼太郎が、小説の中で後付でこてんぱんにやっつけて評価を落とす。

ということは、乃木**大将**を高く評価した当時の多くの国民をも同じ目に遭わせたと同じだと思います。司馬遼太郎が偉大な小説家であることには何の疑問も持ちませんが、これはいかがか？と感じています。



Commented by **湯煙の中一杯** さん  
こんにちわ

2008/10/27 18:51

坂本龍馬ですら司馬遼太郎の書いた「坂本龍馬像」を信じている方が多い中、あれはウソだと言う方達も居ます。立場が違えば視点も異なり、評価がわかれてしかるべきなのではないかと思っています。ですから、いくら司馬遼太郎の小説であろうと、書かれた人物像が本当かどうかは正直わからないと思っています。

ただ乃木将軍に関しては、私の祖父も畏敬していた方でもあり、天皇陛下および乃木大将のためならと戦った方が居たという事実を大切にしたいという想いもあり、隊を率いるに相応しい人物であったと思いたいというのが正直なところですよ。



Commented by **du-staro** さん  
hanausagi 様

2008/10/27 21:05

一時期評価の高かった人が、その後新事実が明らかになって評価が変わると言うのはよくあることです。さらに司馬さんは小説家ですから、湯煙の中一杯さんが仰っているように「本当かどうかは正直わからないと思」います。しかし、世の多くの人が本当だと思ったから評価が変わったのでしょ。

歴史的な評価と言うのは、その学問の性質上すべて「後付」の評価になります。「後付」の評価だから何とでもいえるというのは間違いです。hanausagiさんは歴史学と言う学問を否定されますか。

櫻井さんの言われているのは、そういう新事実の発見による評価の変化ではなく、価値観の変化、すなわち「君に忠、殉死」と言うような徳に対する評価が、時代とともに変わっていくということでしょうね。



Commented by **花うさぎ** さん  
To 湯煙の中一杯さん こんばんは。

2008/10/27 21:35

>いくら司馬遼太郎の小説であろうと、書かれた人物像が本当かどうかは正直わからないと思っています。

相当詳しく歴史の史実を調査した上で、自分の好みの題材、人物を中心にストーリーを組み立てていくという彼の手法は、確かにある意味では「小説」の枠を超えているといえなくもありません。が、やはり「小説」だと思えます。

>隊を率いるに相応しい人物であったと思いたいというのが正直なところですよ。

思いを共にします。乃木希典大将の殉死・自刃直前の辞世の句です。

2008/10/27 22:21

「うつ志世を神去りましゝ大君乃みあと志たひて我はゆくなり」



Commented by **花うさぎ** さん

To du-staroさん

2008/10/27 23:15

> 歴史学と言う学問を否定されますか。

何故ここで歴史学という学問の話になる?。司馬遼太郎氏は歴史学の権威とでも云いたいのか。

> 価値観の変化、すなわち「君に忠、殉死」と言うような徳に対する評価が、時代とともに変わっていくということでしょうね。

一見は正論っぽいけど却下。貴方は変えてはいけない日本の武士道、大和魂を次代と共に変わっていくというが、それが大間違い。

何故、今の価値観を持つ現代人が、明治の時代に必死の思いで苦難を共にした国民の乃木大将の評価を変えて貶めることができるのかを云っている。

もっとわかりやすく云うと、乃木**大将**を評価した国民の皆さん、あなた方は騙されていたんですよ。後の評価で乃木**大将**は無能だと判明したのです、などという資格は現代人にはない。あるのは同じ時代に生きた人だということです。

第一、今でも乃木**大将**に対する評価は悪くても半々、恐らく評価している方が多いと私は思う。



Commented by **du-staro** さん

hanausagi 様

> 一見は正論っぽいけど却下。

自家撞着を起こしていますよ。

僕が言ったことは櫻井女史が言ったことを言い換えただけですが、hanausagi さんは、

> 私はエントリーで櫻井女史がいていることに激しく共感します。

と言っています。



Commented by **故郷求めて** さん

まず、日本人には乃木さんに素直な憧憬を抱いている人が多いと思うし、私もそのひとりです。そうでなければ未だに乃木神社とか乃木坂とか有り難がって言うことは無いと思います。

2008/10/28 08:55

また司馬遼太郎には自ブログでも述べているように愛着もあり尊敬もしていますが、人物評価などで全面同意できない所があります。でも小説にするには仕方の無い所です。

du-staroさんのコメントにひと言。

> 当時の人の一生、行動をいまの私たちの価値観に基づいてみようとするから評価できなくなる、もしくは判らなくなる

「評価できなくなる、もしくは判らなくなる」と念を押している所がミソですね。つまり、価値観の変化を正当化しているのではなく、大切な価値を見落としてしまう、という意味で櫻井女史はコメントしています。繰り返しますと、価値そのものは落ちるものではないが、見る人によって見失われている、という意味ですね。



Commented by **花うさぎ** さん

To du-staroさん

2008/10/28 10:22

> 僕が言ったことは櫻井女史が言ったことを言い換えただけです



エントリーの[櫻井よしこ](#)さんのコメントからどうして

2008/10/28 10:27

>徳に対する評価が、時代とともに変わっていくということでしょうね。

ということになるの？。反対に受け取ってますよ。



Commented by [花うさぎ](#) さん

To 故郷求めてさん おはようございます。

>また司馬遼太郎には自ブログでも述べているように愛着もあり尊敬もしていますが、人物評価などで全面同意できない所があります。でも小説にするには仕方の無い所です。

それが作家としての個性ですからね。でも彼はあんまり人の悪口を書くタイプではないと思ってますが、このケースはその例外でしょう。

NHKが来年から「坂の上の雲」を放映するそうですが、この部分はどんな描写になるのか注目です(^ ^)。



Commented by [風来坊](#) さん

尋常小学唱歌・第五学年用に「水師營の会見」という唱歌がありました。佐々木信綱が作詞したもので、歌詞は一番から九番まである唱歌です。その一部を抜粋します。

- 一 旅順開城約成りて、  
敵の將軍ステッセル  
乃木大将と会見の  
所はいつこ、水師營。
- 三 乃木大将はおごそかに、  
御めぐみ深き大君の  
大みことのりつたふれば、  
彼かしこみて謝します。
- 五 かたち正していひ出でぬ、  
『此の方面の戦闘に  
二子を失い給ひつる  
閣下の心如何にぞ。』と。
- 六 『二人の我が子それぞれに、  
死所を得たるを喜べり。  
これぞ部門の面目。』と、  
[大将](#)答力あり。

2008/10/28 13:39

一方、昭和40年代に、  
▼戦争を仕掛けられたら黙って降伏する  
▼占領されたら敵に同化してしまう  
▼もしも、日本が軍国主義になったら、自分のような者でも革命に立ち上がる。  
という己の国家観を述べたのが司馬でした。

尋常小学唱歌を口ずさみながら歴史を学んだ世代にとっての乃木大将と、司馬史観という色眼鏡で見た乃木大将。

桜井よしこさんは、「いまの私たちの価値観に基づいてみようとするから評価できなくなる、もしくは判らなくなる」と述べられたようですが、「いまの私たちの価値観」というよりも、「司馬の価値観で見るから」ということではないでしょうか？

私も人並の日本人として司馬の代表作は一応読みましたが、どうしても好きにはなれませんでした。上の司馬の国家観はそれよりずっと後になって知ったものですが、彼を好きになれなかった謎が解けた思いがしたものでした。



Commented by [kaigaramusi](#) さん

花うさぎさん、こんにちは。  
ずいぶん涼くなりましたが  
まだまだセミたちはがんばっています。

2008/10/28 15:27

去った24日に、平松茂男氏の講演会

「国境の島石垣の未来を考える」がありました。(無料でした)  
夫が参加して録音してきてくれたので勉強中です。

夫の話では、小ホールで開催されましたが満員状態だったそうです。  
考える以上に、南西諸島は中国からの危機にさらされているという事で恐怖を感じます。

台湾で、本省人の方々のデモが起きているそうですが、特に我が地域は親身に台湾を応援しなければならないと思いました。

あふれる情報の中で知識の少ない私は翻弄されていますが、貴ブログを芯とさせていただき、勉強しております。  
応援しています。



Commented by **花うさぎ** さん  
To 風来坊さん こんにちは。

2008/10/28 17:21

詳しいご紹介、ありがとうございました。

>いまの私たちの価値観」というよりも、「司馬の価値観で見るから」ということではないでしょうか？

櫻井さんの話はこの乃木大将の評価に限った事ではなかったのですが、司馬史観で見たら、昭和は暗黒の時代ですね。

日露戦争までは明るい時代、その後の日比谷焼き討ち事件以降は暗黒とハッキリいってますので、正直いって保守の考え方は相容れないでしょう。しかし、一人の作家の作品の影響力は多大なものがあると云うことでしょう。



Commented by **花うさぎ** さん  
To kaigaramusiさん こんにちは。

> 去った24日に、平松茂男氏の講演会「国境の島石垣の未来を考える」がありました。(無料でした)

おっ、中国の軍事力の分析では第一人者の講演ですね。

>考える以上に、南西諸島は中国からの危機にさらされているという事で  
>恐怖を感じます。

本当に日本は国防安全保障については情け無い限りです。世界標準に近づけたいというところと左翼が大騒ぎする、結局まあまあで戦後來てしまいました。

>台湾で、本省人の方々のデモが起きているそうですが、特に我が地域は親身に台湾を応援しなければならないと思いました。

馬政権反対の民進党主催で、李登輝元総統も支持されましたね。民進党の台湾と日本はこれまで以上に手を携えないといけません。早く政権を奪取して欲しいものです。

中国経済も想像以上にガタガタですから軍部が何をしでかすか判りません。



Commented by **izasarainiko** さん  
花うさぎ様、始めまして。

2008/10/28 20:50

私も、年代的には乃木將軍は、無為に多数の兵士を死なせた無能の將軍。と言うイメージを持っています。学校でも多大な犠牲者を出した203高地攻防戦は、習った記憶があります。

随分前にテレビでも、無為に突撃ばかりを繰り返す乃木將軍を見かねて、別の將軍(児玉源太郎ですね、恐らく)が、無謀にも巨大な砲塔を低地から引っ張り上げさせた後、一撃で要塞を粉碎して見せた場面が報じられていました。あつけに取られた乃木將軍が、いかにも間拔な人物に描写されていた事を思い出します。俳優は誰だったのだろう？

>(変えてはいけない)日本の武士道、大和魂

反日教育を受けた世代の私にとって、余り使いたくはない言葉です。しかし、花うさぎ様が言わんとされる意味も思いも良く判ります。

日本人としての心得？日本人精神？旨く言い換えられませんが、判っているつもりをしています。

>彼だけがそのときの軍服を着続け、髭ぼうぼうにしながら明治天皇に「勇敢なる兵士をたくさん無くして申し訳ない」とさざめ泣くのです。

晴れがましい筈の、陛下の御前での乃木將軍の姿、振る舞いが当時の日本人の共感を呼んだのでしょうか。言葉使いが間違っているかも知れませんが、『許した』のだと思います。



Commented by **花うさぎさん**  
To izasarainikoさん ようこそ。

2008/10/29 01:55

>私も、年代的には乃木將軍は、無為に多数の兵士を死なせた無能の將軍。  
>と言うイメージを持っています。

何かの縁で、ここに来てくれたのですから、違う考え方もあるのだな、調べてみようと思ってくれば幸いです(^ ^)。

>反日教育を受けた世代の私にとって、余り使いたくはない言葉です。

そんなこと云わずに見直してください。日本を賞賛した外国人のほとんどはこの武士道精神、大和魂という道徳心をしっかり持っていた江戸期、明治時代の日本人だったのです。

いうまでもありませんが、「自分は日本人だ」という民族意識、ナショナリズムは今よりも遙かに明治時代のほうが強かったのです。良い意味で、ですが。



Commented by **izasarainikoさん**  
>そんなこと云わずに見直してください。

旨く伝えられないかも知れませんが、『武士道精神、大和魂』と言う言葉を使う事自体、躊躇するのです。気持ちや思いは良く判ります。同意です。そう呼ばれていた精神や、魂が存在していた事は知っています。しかし、残念ながら冷静に考えて、今の日本社会に広く通用するとは思えないのです。

悲観的で情けないのですが、この言葉を正面切って発しても、復古趣味、軍国主義者、右翼のレッテルを貼られるだけの様な気がするのです。

只、自信を持って言えるのは、今を生きている多くの日本人は『武士道精神、大和魂』とやらを無意識の内に持ち続けている筈だと言う事です。私も、その一人と自負します。

それらに代わって、日本人を象徴する様な新しい言葉が欲しいなど、考えます。



Commented by **花うさぎさん**  
To izasarainikoさん おはようございます。

2008/10/29 10:51

>旨く伝えられないかも知れませんが、『武士道精神、大和魂』と言う言葉を使う事自体、躊躇するのです。

なんとなく理解できますよ。

## 乃木希典は無能な軍人か？:イザ！

> 残念ながら冷静に考えて、今の日本社会に広く通用するとは思えないのです。

悲しいことですが、そうかも知れません。

> 只、自信を持って言えるのは、今を生きている多くの日本人は『武士道精神、大和魂』とやらを無意識の内に持ち続けている筈だと言う事です。私も、その一人と自負します。

判ります。「日本人の道德心」でも良いと思いますよ。礼儀正しい、真面目、勤勉など基本部分では同じですから(^^)。